

COOP

京都の生協

C O N T E N T S

◆鳥インフルエンザに負けないゾ！

- 3.27 生産者と消費者の緊急集会開催.....2
- 生産者のみなさんから産地の現状が報告されました...3
- 「せいきょう虹の会」のみなさんからの激励.....4
- 生協組合員から生産者へ励まし
- 満場の拍手で集会アピールを採択.....5
- 組合員から寄せられたメッセージ.....6
- 「食の安全・安心」をもとめて、意見交換会開催...7
- 京都府が風評被害対策会議を開催

●2004●臨時号●NO. 発行●京都府生活協同組合連合会

52

<鳥インフルエンザ問題特集>

3月27日、鳥インフルエンザ 緊急集会に104名が参加！

3月27日(土)、「鳥インフルエンザに負けないゾ！ 生産者と消費者の緊急集会」をせいきょう虹の会の協力で開催。移動制限区域内にある養鶏場から参加した6名の生産者が、産地の現状を報告しました。



全国からかけつけた養鶏関係者、産直生産者、京都生協の組合員、せいきょう虹の会会員など104名が参加し、会場はいっぱいに。生産者を激励しました。

近畿農政局が京都駅頭で鶏肉・鶏卵の安全性を宣伝

3月20日(土)、農林水産省近畿農政局職員20名が、京都駅頭でチラシを配布し、鶏肉・鶏卵の安全性をうたえました。山川雅典局長、木村均次長を先頭に、京都府の養鶏業者、京都府生協連も参加しました。

(写真右 近畿農政局 山川雅典局長)



鳥インフルエンザに負けないゾ!

3.27 生産者と消費者の緊急集会開催

全国の仲間が卵生産者を激励 「緊急アピール」を採択!

3月27日(土)、京都府生協連のよびかけにより、せいきょう会館で「高病原性鳥インフルエンザに負けないゾ!生産者と消費者の緊急集会」が開催され、104名が参加しました。

2月27日に京都府丹波町で発生した「高病原性鳥インフルエ

ンザ」により、半径30km以内で鶏肉・鶏卵の移動制限をうけた生産者を激励、一日も早い事態の解決を願って開催されたもので、開催にあたっては、京都生協の取引先で構成する「せいきょう虹の会」のご協力をいただきました。

今回の鳥インフルエンザ発生により、制限区域内で規制対象となった養鶏場は、京都府内で60、大阪府・兵庫県をあわせて84あり、飼養されている鶏は約200万羽。

そのうち、京都の生協に対して卵を供給している養鶏業者は10、飼養されている鶏は49万羽と合わせて大きな部分を占めています。

これらの生産者から供給される生協の卵は、「コープさくら卵」「コープひらがら卵」という、飼料や飼育方法にこだわった特色の強いもの。生産者と生協が長年協力して作り上げてきました。



【移動制限を受けた産地では出荷できない卵で倉庫が一杯に】

開会にあたって、京都府生協連の吉田智道会長理事があいさつをのべました。



吉田智道会長理事

つづいて京都生協の小林智子理事長(京都府生協連 副会長 理事)が生産者を激励しました。



小林智子理事長

二月二七日、京都府丹波町内で高病原性鳥インフルエンザが発生して以降、京都の生協が日頃、お世話になっているみなさまに大きな影響がおよぶ事態となっております。

わたしたちは、わが国における食料自給また地産地消推進を大切に、地元の生産者と手をたずさえながら、「コープさくら卵」「コープひらがら卵」を育て上げてきました。みなさんとともに努力して作り上げた「宝物」である卵が、移動制限区域内で毎日49万個ちかく産みつけられるにもかかわらず出荷が困難で、消費者は入手できないという、きわめて重大な事態が発生しています。

京都府生協連では、鳥インフルエンザ発生の報道に接し、ただちに農林水産省・京都府などへ要請をおこなうとともに、地元選出の国会議員・諸団体との意見交換会を開催し、生産者との提携による特色のある卵の供給と利用の状況についてご理解をいただくとともに、供給の持続へむけて要請をおこなってまいりました。

こうした活動を反映して、三月一六日、国は「鳥インフルエンザ緊急特別総合対策」を発表いたしました。その具体的内容は明確なものとはなっておりませんが、また不十分な点も多くみられ、これまで以上に取り組みをつよめていく必要があると認識しているところです。

一刻も早い事態の解決と供給の再開を念じ、お見舞いの言葉とさせていただきます。ともに、この苦境をのりこえていきましょう。

【3月18日、吉田智道会長理事から卵生産者に送られた手紙】(抜粋)

生産者のみなさんから産地の現状が報告されました

今回の鳥インフルエンザ発生により、鶏肉・鶏卵の移動制限区域内にある「さくら卵」「ひらがい卵」の養鶏場から生産者がかけつけられ、6名が産地や卵の現状について報告しました。



〈亀岡市〉井木養鶏場
井木達雄さん

「今は毎日捨てる卵を生産しているという情けない状態だ。供給再開になったら、風評に惑わされず、ぜひ利用していただきたい」



〈瑞穂町〉(有)ミズホファーム
木村剛さん

「丹精こめた卵が焼却処分されるのが決まり、胸が痛む。安全宣言が出されたら、一から始めるつもりでがんばろうと思っている」



〈市島町〉中井養鶏場
中井弘明さん

「兵庫県では焼却処分が早く始まったが、一生懸命つくった卵を、自分の手で焼却炉に入れた手の感触が生々しく残っている。みなさんに卵を利用してもらうことがなよりの支えだ」



〈亀岡市〉京都食品(株)
中澤廣司さん

「京都の事例が国の施策に反映していくなら少しは報われる。予想以上の風評被害に途方にくれたが、本日の励ましをバネにがんばりたい」



〈三和町〉山元産業(株)
山元勉さん

「発生以降、卵の返品が続き、回収に走った。10日前の卵も返されてつらい思いをした。今は生協ががんばれといってくれることを頼りに、力を出している」



〈市島町〉近藤養鶏場
近藤篤さん

「再開できても、小さな養鶏場はこれからやっていけないのではと不安だ。消費者のみなさんには、ぜひ卵をたくさん利用してほしい」

【京都生協の産直卵取扱い状況】

種類	鶏の種類	飼料	卵の特徴
白卵	白色レグホン系	生協指定配合飼料	添加物を使用しない安全な飼料で育った鶏から生まれた白卵
桜卵	ゴトウ360 ♂：白色レグホン ♀：ロードアイランドレッド	生協指定配合飼料 自家配合飼料	桜色の殻をもつ 盛り上がった卵黄と濃厚な卵白 殻が丈夫で風味と鮮度が長持ち
平飼卵	ゴトウ130 ロードアイランド種	生協指定配合飼料 自家配合飼料	平飼の健康な鶏から生まれた赤卵 自然に近い状態で生まれたコクのあるおいしい卵



＜発生農場から半径30キロメートル以内の産地＞

- ①(有)ミズホファーム（京都府船井郡瑞穂町）
- ②山元産業(株)三和鶏園（京都府天田郡三和町）
- ③J A 京都美山支店中野養鶏場（京都府北桑田郡美山町）
- ④〃 〃 外田養鶏場（ 〃 ）
- ⑤〃 〃 清水養鶏場（ 〃 ）
- ⑥〃 〃 中島養鶏場（ 〃 ）
- ⑦京都食品(株)亀岡養鶏センター（京都府亀岡市余部町）
- ⑧井木養鶏場（京都府亀岡市穂田野町）
- ⑨J A 丹波ひかみ市島支店近藤養鶏場（兵庫県氷上郡市島町）
- ⑩〃 〃 中井養鶏場（ 〃 ）

「せいきょう虹の会」、全国の産直生産者のみなさんからの激励

京都生協の取引先で構成する「せいきょう虹の会」、全国からかけつけた養鶏関係者・産直生産者の代表が卵生産者を激励し、勇気づけました。

「せいきょう虹の会」から



(株)サラダコスモ
中田智洋社長



鳥取畜産農業協同組合
鎌谷一也専務理事

全国の養鶏関係者・産直生産者のみなさんから

日本卵業協会・寺西孝年さん（大阪）、後藤孵卵場・中島義文さん（岐阜）、有田コープファーム・小西敬民さん（和歌山）、穂崎養鶏場・穂崎宏英さん（広島）、坂本産業・坂本克彦さん（岡山）からも、生産者への激励の発言をいただきました。

「1996年8月、O-157の原因がカイワレではないかと報道され、その後の3年間は出荷量がピーク時の2割に落ち込んだ。しかし、社員には賃金カットはしない、がんばろうと訓示し、新商品開発のかたわら安全性をうったえつづけた。

そのなかで生協がすぐに販売を開始してくれたことに感謝している。

カイワレの出荷量は戻らなかったが、新しい発芽野菜などで今は8年前の2倍の売上に。今はつらいが困難から逃げず、いつか励ます立場になつていただきたい」

「2001年9月にBSEが発生し、10月には売上が前年比4割に。日本から畜産がなくなるのではと大きな不安が広がったが、国へのはたらきかけとあわせ、生産者が直接安全性をうったえる活動をつづけた。

そのような活動の場をもつことができ、また、生協組合員・役職員の力ぞえに産直のありがたさをあらためて感じた。

卵が日本からなくなっていわけではない。展望は必ず開ける。安全な商品を生産しているという誇りと責任をもつて、がんばってほしい」



日本卵業協会・寺西孝年会長

生協組合員から生産者へ励ましのメッセージ

生協組合員からは卵生産者を励ますたくさんのメッセージが紹介され、生産者に手渡されました。



京都生協・斉藤紀子理事より



京都生協・川田信子理事より



京都生協・松本敬子理事より

満場の拍手で集会アピールを採択

京都生協・廣瀬佳代常任理事
事が「鳥インフルエンザに負けないゾ！生産者と消費者の緊急集会」アピールを提案。

「本日、私たちは一堂に会し、食料自給の大切さ、地産地消の取り組みの意義、生産者と消費者の提携の尊さについて、あらためて学びあい、確認しあうことができました。まだ困難が終わったわけではないが、生産者と消費者がともに手をたずさえ、心をよせあつて、『食』の安定・安全・安心への実現へむけて、力づく前進していきましょう」と呼びかけ、満場の拍手で採択されました。

「せいきょう虹の会」の内田吉治会長からごあいさつをいただき、閉会しました。



せいきょう虹の会
内田吉治会長



集会アピールを提案する
京都生協・廣瀬佳代常任理事

「鳥インフルエンザに負けないゾ！生産者と消費者の緊急集会」アピール

二月二十七日、京都府丹波町内で高病原性鳥インフルエンザが発生して以来、はや一カ月がすぎようとしています。例年であれば、桜前線の北上にともない、卒業式や入学式・入社式など、それぞれが人生のあたらしい一歩をふみだす、もっともさわやかでよるこびのあふれる時季であるはずですが。しかし、いま、わたしたちは「食」の安定・安全・安心にかかわる、かつてない事態の進行のなかで、この春をむかえています。

本日、京都の生協とともに「コープさくら卵」[コープひらがいの卵]を育て上げてきた地元生産者、せいきょう虹の会の会員、全国からかけつた産直生産者・養鶏関係者、そして消費者である生協組合員・京都府民、あわせて一〇四名が一堂に会し、緊急集会を開催しました。

鳥から鳥への感染をふせぐためにとられた防疫措置により移動制限をうけている区域内の生産者からは、この一カ月間の苦渋にみちた状況について、血のふきでるような報告がありました。これにたいし、〇一五七問題のときに大きな危機に直面した生産者の体験、BSEシヨツクのさいに立ち向かった方がたの勇氣、さまざまな苦境をのりこえてきた異業種の方がたの発言は、なによりの励ましとなりました。生協組合員からは、日頃お世話になっている方がたへの心からのお見舞いとこんごにむけての期待が熱く語られました。

二〇〇四年三月二十七日

「鳥インフルエンザに負けないゾ！生産者と消費者の緊急集会」参加者一同

まだ困難は終わったわけではありません。供給を持続させるための補償も十全に取り組まなければならないかもしれません。いったん落ち込んだ卵や鶏肉の消費も元に戻し、それ以上に生協商品の価値について理解を広げ供給を伸ばしていく必要があります。そして消費者が安心して食生活を送ることができる法制度はじめ社会的なシステムをつくりあげていく課題も大切です。また、今回の問題がもたす安全問題とは区別されて考えられるべきものではあるのですが、流通の広域化・迅速化・複雑化や情報化のいちじるしい進展のなかで、「食の不安」として大きくあらわれてくる今日の社会構造について、事業者としても消費者としてもしっかり検証し、学んでいかなければなりません。養鶏・鶏卵生産のあり方も、あらためて問いかけられています。

本日の集会では、わが国の「食と農」をめぐる問題として真摯に考えあい、食料自給の大切さ、地産地消の取り組みの意義、生産者と消費者の提携の尊さについて、確認しあうことができました。現在の苦境を打開して未来を切り開いていく力は、なにより、わたしたちじしんのなかにあります。生産者と消費者がともに手をたずさえ、心をよせあつて、「食」の安定・安全・安心への実現へむけて、力づく前進していこうではありませんか。

6

「食の安全・安心」をもとめて、意見交換会開催

3月4日(木)、民主党菅直人代表が高病原性鳥インフルエンザ現地調査のため入浴。京都府生協連をはじめ、JAA京都中央会・京都府食鳥肉販売業生活衛生同業組合・京都府養鶏協会・NPO法人コンシューマーズ京都(京都消団連)が参加して意見交換会が開催されました。

当日は、菅代表をはじめ、前原誠司衆議院議員、泉ケンタ衆議院議員、福田哲郎参議院議員(民主党京都府連高病原性鳥インフルエンザ調査・対策本部



菅代表(左)に意見をのべる小林智子副会長長理事

菅代表は「京都府だけの問題ではない。国の危機として最大の対応をおこなっていきたい」とのべました。



発言する高田艶子理事

京都府生協連からは小林智子副会長長理事、高田艶子理事、坂本事務局長が参加。京都生協からは8名の理事が参加し、要望書を手渡しました。

3月6日(土)、日本共産党京都府委員会高病原性鳥インフルエンザ対策本部(本部長・西山と



京都府生協連からは小林智子副会長長理事、小峰耕二専務理事、坂本事務局長、京都生協からは理事・職員あわせて10名、NPO法人コンシューマーズ京都(京都消団連)も参加しました。

「高病原性鳥インフルエンザ」発生以降の京都府生協連のおもな活動

- ◇2月27日(金)「高病原性鳥インフルエンザ発生」の疑い」報道をうけ、京都府・近畿農政局へ情報提供を要請。入手した情報は、ただちに会員生協・近隣生協連・日本生協連に提供。農林水産省近畿農政局を訪問。要請。京都府を訪問。保健福祉部へ「京都府食品衛生監視指導計画(案)についての意見」を提出。鳥インフルエンザ対策について提言。
- ◇2月28日(土)「京都府商工部・農林水産部を訪問。要請。
- ◇2月29日(日)「府内生産者(美山町)訪問。
- ◇3月1日(月)「高病原性鳥インフルエンザ発生にともなう京都府生協連としての当面の対応」をまとめ、会員生協に送信。以降、毎日、Eメール・FAX・HPなどで近隣生協連・日本生協連へ情報発信(3月15日まで)。府知事・近畿農政局へ要望書提出。
- ◇3月2日(火)「鳥インフルエンザ対策本部」を設置した団体・政党へ意見交換会の開催を申し入れ。
- ◇3月3日(水)「日本生協連関西地連・府県連協議会(大阪で開催)で報告。『京都府食の安心・安全意見交換会』が京都府内で開かれ、京都府から鳥インフルエンザ発生について報告をうける。
- ◇3月4日(木)「小泉首相へ『京都の生協としての緊急要望』書を送付。民主党・菅代表が入浴。意見交換会が開催され、要望書を手交。民主党からは前原誠司衆議院議員、泉ケンタ衆議院議員、福田哲郎参議院議員が多数出席。京都府生協連以外の参加は、コンシューマーズ京都(京都消団連)、JAA京都中央会、京都府食鳥肉販売業生活衛生同業組合、京都府養鶏協会。
- ◇3月5日(金)「近畿地区生協府県連協議会(奈良で開催)で報告。
- ◇3月6日(土)「日本共産党京都府高病原性鳥インフルエンザ対策本部(本部長・西山と金子参議院議員)との意見交換会を開催。日本共産党からは松尾、西協府会議員、玉本市会議員が参加。要望書を手交。
- ◇3月7日(日)「京都府生協連『ユース』鳥インフルエンザ問題臨時集約の発行準備。
- ◇3月8日(月)「マスコミ取材対応。
- ◇3月9日(火)「月曜会(在洛新聞放送責任者会議)との懇談会開催。参加は、朝日新聞・NHK・京都新聞・共同通信。時事通信・中日新聞・日刊工業新聞・日本経済新聞の各社。京都府選出の全国会議員へ、小泉首相・山内近畿農政局長・山田府知事あての各「要望書」をまとめ、送付・支援要請。
- ◇3月10日(水)「京都府生協連『ユース』臨時号・鳥インフルエンザ特集を発行。
- ◇3月11日(木)「鳥インフルエンザに負けないゾー生産者と消費者の緊急集会」を「せいきよう虹の会」(京都生協のお取引先456社で構成。内田吉治会長)の協力で開催することを確約。
- ◇3月12日(金)「京都府「鶏肉・鶏卵に係る風評被害対策会議」が開催され、酒向担当が出席。
- ◇3月13日(土)「発生農場から半径30キロメートル以内の生産者(9農場)を訪問。
- ◇3月14日(日)「農林水産省近畿農政局と近畿地区生協府県連協議会との意見交換会(3/16)の開催準備。
- ◇3月15日(月)「地元テレビ局の取材対応。
- ◇3月16日(火)「農林水産省近畿農政局と近畿地区生協府県連協議会との意見交換会を開催。要請。
- ◇3月17日(水)「農林水産省近畿農政局を訪問。要請。
- ◇3月18日(木)「京都府および京都市の議会各会派へ、3月27日緊急集会について案内。
- ◇3月19日(金)「相模原農林漁業振興会・相模原農業技術者協議会トレーサビリティ研修会で坂本事務局長が講演。鳥インフルエンザ問題について報告。
- ◇3月20日(土)「近畿農政局が京都駅頭で「鶏肉・卵の安全性」を訴える宣伝行動。ナカテケイラン・鳥内裕一社長をはじめ京都府の養鶏業者、京都府生協連も参加。
- ◇3月21日(日)「京都の生協臨時号・鳥インフルエンザ特集の準備。
- ◇3月22日(月)「内閣府食品安全委員会・厚生労働省・農林水産省近畿農政局・京都府・京都市主催講演会「食のリスクコミュニケーション」講演会へ鳥インフルエンザのリスクについて参加。意見交換。京都府生産・消費連携推進協議会開催。参加。
- ◇3月23日(火)「せいきよう虹の会・内田会長へ状況報告。
- ◇3月24日(水)「京都府訪問。情報提供および要請。
- ◇3月27日(土)「鳥インフルエンザに負けないゾー生産者と消費者の緊急集会」を「せいきよう虹の会」の協力で開催。
- ◇4月1日(月)「京都府山田知事、麻生副知事を訪問。3月27日集会開催について報告。アピール文をお渡ししました。
- ◇予定「4月15日(木)「鳥インフルエンザに負けないゾー生産者と消費者の緊急集会」を「せいきよう虹の会」をJAA京都中央会と共同で開催。

以上

鶏肉・鶏卵は安全です！

京都府が風評被害対策会議を開催しました。

3月12日（金）、ルビノ京都堀川で、流通・販売の業界団体などを対象に「京都府鶏肉・鶏卵に係る風評被害対策会議」が開催され、京都府生協連からは酒向事務局担当が参加しました。

京都府からは、高病原性鳥インフルエンザが発生した丹波町農場での防疫作業進捗状況、発生以降、府内小売店での鶏肉・鶏卵の売上が半分以上

下になっていることなどが報告され、鶏肉・鶏卵についての安全性があらためて説明されました。

あわせて今回の被害に対する緊急融資制度の紹介もおこなわれました。

参加団体には風評被害防止のための啓発ポスター（左）が配布され、各団体の関係者への協力が呼びかけられました。

鶏肉、鶏卵は安心して食べていただけます



店頭
京都府内産
鶏肉・鶏卵は
安全です

- 鶏肉、鶏卵を食べて人が鳥インフルエンザウイルスに感染した例はありません。
- 鳥インフルエンザウイルスは、十分火を通せば（中心温度70℃）死滅します。また、このウイルスは酸（胃酸）に弱いので、万が一鶏肉や鶏卵にウイルスが存在したとしても、胃酸で死滅します。
- 鶏、鶏卵の移動が制限されているのは、国内の鳥への感染を防ぐための防疫措置です。決して、鶏肉、鶏卵が人に危険な食品だからではありません。
- 市場に出回っている鶏肉、鶏卵は安全ですので、安心して買い求めください。

京都府

日本生協連が「鳥インフルエンザ対応の手引」を作成

あいつく国内での「鳥インフルエンザ」の発生に対応するため、日本生協連は3月4日『鳥インフルエンザ対応の手引』を作成しました。

予防対策・発生の疑いや発生時の対応など、多くの生産者のみなさんにも参考にしていたいただけるものです。

日本生協連 安全政策推進室
電話：03-5778-8109
<http://www.co-op.or.jp/jcu/index.htm>

農林水産省近畿農政局と近畿地区生協府県連協議会との意見交換会を開催

3月16日（火）、せいきよう会館で農林水産省近畿農政局と近畿地区府県連協議会との意見交換会を開催しました。

近畿農政局からは山川雅典局長、今村洋次長、永江啓一消費・安全部長など7名が参加。生協からは滋賀・奈良・和歌山・大阪・兵庫・京都の各府県連役員12名が参加し、日生協関西地連・川村恵彦局長、西島

秀尚担当も、オブザーバーとして参加しました。

永江部長より、食品安全推進へむけての新しい機構になって以降のとりくみ、こんごの課題が報告されました。つづいて食品表示、リスクコミュニケーション、鳥インフルエンザ問題、米国BSE問題等をテーマとして、各担当より報告があり、活発な意見交換がおこなわれました。



食のリスクコミュニケーション・シンポジウム（京都）開催

3月22日（月）、ホテルニュー京都で、内閣府食品安全委員会・厚生労働省・農林水産省近畿農政局・京都府・京都市の主

催で「食のリスクコミュニケーション・シンポジウム（京都）」が開催され、京都府生協連からは坂本事務局長・酒向事務局担当が参加しました。

今回の意見交換会は「食の安全について考える（鳥インフルエンザのリスクについて）」をテーマとして開催。

鳥インフルエンザがわが国の食にどのようなリスクがあるのか、食品安全委員会委員 見上彪氏、国立感染症研究所情報センター所長 岡部信彦氏による講演と、農林水産省消費・安全局 姫田尚消費者情報官、京都市保健福祉部生活衛生課 森田正和担当課長の報告がありました。

